



湯のまちのぼりべつが
熱く燃えた3日間
第61回登別地獄まつり

8/23~25

8月23日、25日、登別地獄まつりが登別温泉町の極楽通りや登別地獄谷をメイン会場に開かれ、3日間で5万5千人が祭りを楽しみました。

オープニングセレモニーの直前まで降った強い雨は直前には降りやみ、地獄の谷の鬼花火地獄まつり特別バージョンで祭りは開幕。24日・25日の両日は晴天に恵まれ、昼から多くの来場者が極楽通りに立ち並ぶ露店のグルメを味わい、登別中学校による『熊舞』や和太鼓の演奏などを楽しんだほか、人気テレビアニメ『ゴールデンカムイ』とのコラボによる等身大パネルやポップアップショップには多くのファンが詰め掛けていました。夜には大迫力の閻魔大王からくり山車の運行や重量約1トの鬼みこしが極楽通りを所狭しと練りこみ、祭りの熱気は最高潮を迎えます。

締めくくりは、鬼踊り大群舞。市民や観光客が入り混じり「湯気、湯気、湯気、湯気、湯気」を流して、流して、角、角、角出して、角出して、チョチョンがチョン」の掛け声に合わせて極楽通りを踊り歩きました。



▲新たに着任した外国語指導助手の4人
(前列左からジゼルさん、アンジェリーナさん、ジャクソンさん、ロバートさん)

国際経験を生かした指導を
外国語指導助手 着任あいさつ

8/27

市内小・中学校で児童・生徒の指導に当たる外国語指導助手（ALT）が着任し、8月27日に市役所を訪れました。

着任したのは、アメリカ出身のパウティスタ・ジゼル・フランセリーさん、ジョン・アンジェリーナ・ジンさん、ピーターソン・ロバート・テイトさん、カナダ出身のベグリー・ジャクソン・ウィリアムさんの4人。日本の食べ物や伝統行事、歴史などに興味がありALTを志しました。

市長は「皆さんが今まで体験してきたことを、会話を通して子どもたちに教えてあげてほしい」と4人へ伝えました。

おいしいビールになることを願い
市民有志がホップを収穫

9/2

9月2日、市民有志でつくる『登別産ホップ研究会』は、登別産地ビールに使うホップの収穫を札内町の農園で行いました。平成28年に同会を立ち上げて以来ホップの研究や栽培を重ね、今回は7回目の収穫。この日は約60人の参加者がつる切りや摘花、選別の作業をそれぞれ丁寧に言い、91畝を収穫しました。

収穫したホップはその日のうちに上富良野町に運び乾燥作業をした後、10月上旬にわかさいも本舗の地ビール工場で醸造を開始。12月中旬には登別産ホップ100畝の地ビールが販売される予定です。



▲丁寧にホップを摘花する参加者